



## 慢性腎臓病セミナーを開催しました

12月19日(木)、玄々堂君津病院の新館大会議室で、腎臓病セミナーを開催しました。当院で定期的に受診されている患者さんの他、地域住民の皆さんも含め、36名の参加がありました。

今回のテーマは、「腎臓病の治療は、血液透析だけではない。自分に合った治療法を見つけませんか」。腎代替療法について、当院の医師や看護師、臨床工学技士が講義を行いました。

最初に、当院の総合腎臓病センター長でもあり、副院長でもある大崎医師から、「腎臓」という臓器と慢性腎臓病について、そして腎代替療法について、全体的な話をさせていただきました。

続いて、看護師の伊藤主任と、臨床工学技士の高橋主任からは、複数ある腎代替療法の具体的な話をさせていただきました。当院での「血液透析」の流れや実際のところを、また、「腹膜透析」や「腎移植」について、動画による紹介や、実際に使われる機材などをご覧いただきました。それぞれの腎代替療法のメリットとデメリットを理解いただけたと思います。

今回のセミナーは新しい取り組みでしたが、たいへん好評いただきました。これを受け、玄々堂君津病院では、セミナーを定期開催できるように準備を進めています。



## 出前教室に参加しました

『出前教室』は、市内の企業が学校に訪問し、学生さんに授業を通じて、普段どのような仕事をしているかを紹介する、君津ロータリークラブ主催の事業です。

今回の訪問は周西中学校。病院は多くの職種で運営されていること、それぞれがどんな仕事をしているのかをお話ししました。そして、患者さんに安心していただける医療を提供するため『相手への思いやり』を大切にしていること伝えると、学生たちは真剣な表情で聞いてくれました。

たとえ将来、学生たちが医療に携わらなかったとしても『思いやりの心』を持って自分の道に進んでほしいと思います。



## クリスマスコンサート

12月21日(土)外来の待合ホールにてクリスマスコンサートを開催しました。病院のボランティアさんが会場の飾りつけや来場する患者さんの送り迎え等、準備してくれました。きみびよんも会場に駆けつけてくれました。

初めに「童謡・唱歌の会」の皆さんが歌声を披露してくれました。来場された患者さんや地域の方々も一緒に口ずさんでいました。続いて当院の薬剤師スタッフがハンドベルやギターの演奏、クリスマスソングのイントロクイズで会場を盛り上げてくれました。最後に玄々堂かがやき保育所の子どもたちが歌って踊ってくれました。子どもたちの元気いっぱいの姿で会場全体が明るくなりました。今年も楽しい時間を過ごせたことに感謝し、来年も皆さんが元気に参加できることを祈りながらクリスマスコンサートは幕を下ろしました。



2020年1月  
NO.1

玄々堂君津病院広報誌



●新年のご挨拶…1面 ●野口先生招聘…2面 ●活動報告…4面

## 令和2年 年頭の挨拶



玄々堂君津病院 院長  
池田 重雄

新年あけましておめでとうございます。今年もどうかよろしくお祈りいたします。

2019年は千葉県直撃の台風の影響、水害にて多くの皆様が、断水、停電、家屋の損害等多くの被害に遭われたことと思います。心よりお見舞い申し上げます。当院も、建物の損壊は免れましたが、病院本体で3日間の停電(一部自家発電が機能しました)、その後5日間の断水を被りました。このような状況で、入院中また通院中の患者様には、診療の縮小変更等で多大な不便をおかけしましたこととお詫び申し上げます。また、この時期、当院に対してご援助いただきました、地域、市、県、自衛隊の皆様には、病院を代表しまして心より感謝申し上げます。幸い現在は被害の傷跡はなくなりましたが、この教訓を糧にさらに災害に強い病院、組織となるように、職員一同準備しているところです。

玄々堂グループの新しい施設として、2019年5月、富津市佐貫地区に「玄々堂佐貫クリニック」を開設させていただきました。小さな診療所ではありますが、隣接する特別養護老人ホーム「玄々堂亀田の郷」(社会福祉法人佐貫会)とともに、玄々堂グループが培ってきた力とチームワークで佐貫地区の皆さまへ医療、介護サービスの提供に努めていく所存です。玄々堂佐貫クリニックでは外来診療と、介護保険を含めたりハビリテーションを、亀田の郷ではデイサービスや定期巡回介護サービスなどを開始しております。

今年も、玄々堂君津病院開設からの基本方針があります、地域の皆様へ良質な温かい医療サービス、介護サービスを提供できますように職員一同努力して参りますので、どうかよろしくお祈りいたします。

## 下肢静脈瘤 レーザー治療

「足の血管(静脈)が肌によく浮き出ている…」といった症状でお悩みではありませんか?

コブ状に浮き出ている血管、足のむくみをはじめとした不快感、皮膚の黒ずみ・湿疹など、これらの症状は“下肢静脈瘤”が原因かもしれません。

下肢静脈瘤とは、足の血管が逆流を起こして太くなり、ポコポコとコブのようになってしまう病気です。見た目の他にも、むくみ、だるさ、重さ、こむら返り等の症状が出ることも特徴です。命に係わるような悪い病気ではないのですが、自然に治ることはなく、少しずつ悪くなっていく病気です。



手術で悪い血管を抜き取る従来の治療に代わり、レーザーを使った治療法が出てきており、このたび当院でもこの「レーザー治療」が始まりました。

レーザー治療は、血管に細い光ファイバーを通して行う治療で、体への負担が少ないのが特長です。今後は日帰り手術も行う予定です。

下肢静脈瘤のご相談は、お近くの外来職員にお声かけていただくか、電話(外来診療予約)でお問い合わせください。

## 春季消防訓練のご案内

玄々堂君津病院では春季消防訓練の実施を予定しています。今回は深夜に火災が発生したことを想定し、発災後30分の初動行動に重点を置いた訓練を実施します。



訓練当日は、サイレンや訓練用の院内放送などの騒音でご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力の程、宜しくお願いいたします。

日時 3月14日(土) 15:00~16:00

対象施設 玄々堂君津病院 本館・新館・透析棟

## 玄々堂君津病院各お問い合わせ番号 月曜日~土曜日(日曜・祝日は除く)

病院  
代表番号 **0439-52-2366**  
URL <http://www.gengendo.jp>

外来  
診療予約 **0439-52-7068**  
受付時間 午前9時~午後4時  
※時間帯により大変繋がりにくい場合もございます。その際は代表番号へおかけください。  
※外来担当医師診療予定は、ホームページから閲覧できますので、ご利用ください。  
※救急・急患の場合は、代表番号にご連絡ください。

総合  
腎臓病  
センター **0439-52-2750**  
受付時間 午前9時~午後4時

地域  
連携室 **0439-52-2457**  
受付時間 午前8時30分~午後5時



# 着任医師紹介

10月に野口医師が常勤医師として着任しましたので紹介します。

呼吸器内科

部長 野口昌幸医師

略歴

- 東京慈恵会医科大学卒業
- 国家公務員共済虎の門病院呼吸器科
- 米国国立衛生研究所(NIH)
- 米国ハーバード大学医学部ベイスラエル病院
- 北海道大学医学院

資格

- 医学博士(内科)
- 総合内科専門医
- 感染症専門医、指導医
- インフュージョンコントロールドクター(ICD)

趣味・特技

- 油絵、水泳、テニス、スキー



## 野口医師にインタビュー

**Q** どのように呼吸器内科の専門性を磨いてこられたのですか？

**A** 虎の門病院呼吸器科スタッフとして肺気腫やびまん性汎細気管支炎などの呼吸器感染症、慢性呼吸不全、気管支ぜんそくなどのアレルギー疾患、肺がんや間質性肺炎など多彩な呼吸器科の診療に従事し、総合内科専門医、感染症専門医、アレルギー専門医などの専門医資格を取得しました。

※渡米の関係で、現在はアレルギー専門医の資格は更新していません

**Q** 当院で診察することになった経緯を教えてください

**A** 玄々堂君津病院副院長の荻野良郎先生とともに虎の門病院内科レジデントとして臨床研修、米国国立衛生研究所での研究など、親しくしていただ

いたご縁があり、人との出会いの大切さを感じています。

**Q** 診療の中で心掛けていることなど

**A** 患者さんの話に耳を傾け、地域に愛される病院の歯車として、少しでもお役に立てるようになることを心がけています。

**Q** 実際に当院で診療した印象は？

**A** 昨年10月から診察をさせてもらっていますが、想像していたよりもぜん息の患者さんが多い印象です。一般に「かぜ」とみなされるせき症状の中には、「じつはぜん息だった」ということが稀にあります。呼吸器疾患の専門医として経験を活かし、多くの患者さんに関わっていければと思います。



Great Falls 国立公園



余市のニッカウキスキーの蒸留所



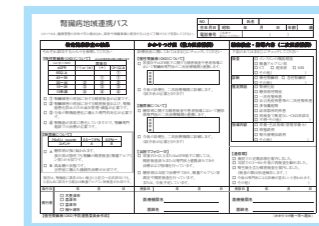
すすきの通り

## 慢性腎臓病連携パスをご存知ですか？

「腎臓」は皆さんご存知かと思われませんが、背中に左右一対のこぶし大くらいの内臓で、尿を作って体から出る老廃物を体外に排出している内臓です。さらに腎臓は体をアルカリ性に保ち、赤血球を作るホルモンを分泌し、血圧の調整や骨の代謝に関与するなど、人体を健康に保つための重要な臓器です。もちろん腎臓がなければ私たちは生存することができません。

その大切な腎臓が気付かないうちに少しずつ痛んできてしまう病態を「慢性腎臓病」といいます。今や国民の8人に1人が慢性腎臓病であると言われ、「新しい国民病」とも呼ばれています。慢性腎臓病の恐ろしいところは、まったく症状がないうちに陰で進行して尿毒症になってしまうことです。ですから採血や尿の検査をしなければ気が付くことはありません。そしてその原因にはいろいろな病気が関与しているうえに、日常生活で塩分を過剰に摂取し基礎疾患を放置すると病気がどんどん進行してしまいます。

このような慢性腎臓病ですから、症状が出てからの対応ではあまりにも遅すぎるため、健康診断で発見して早めに手を打たなければいけません。そこで、2019



パスを持って  
かかりつけ医に行く

郵送で  
パスが届く



年から行政と医師会で協力して作り上げたのが、この「慢性腎臓病地域連携パス」です。特定健診を受診いただき、腎障害の疑われる方の元に、行政から書類が届きます。この書類には、「どこに異常があったか」が記載されています。受け取った方は、その書類をかかりつけの先生に提出してください。かかりつけの先生が今までの治療経過を踏まえたうえで次の手配を指示してくれます。ポイントは何で腎臓が悪くなったのか、原因が調べてあるかどうか、そして適切な治療がされているかどうかです。ぜひ慢性腎臓病地域連携パスをうまく利用して、早期対策を行いましょ。

## 2019 台風・豪雨による被害報告

2019年9月9日に関東地方を襲った台風15号による被害について報告します。

9日(月)未明、台風15号の影響で地域一帯が停電、当院でも自家発電装置による給電を余儀なくされました。施設内の至るところで風雨が吹込み、夜勤の看護職員は雨水の拭き上げ作業に追われました。夜が明けると、道路は飛んできたがれきが散乱し、停電の影響で信号機が機能しておらず、透析患者さんの安全な送迎は不可能と判断しました。しかし、停電の影響で電話が繋がらず、送迎バスの運休の連絡は困難を極めました。

被災して出勤できない職員がいる中、停電の影響もあり、外来診療の縮小、予約検査及び手術の延期、透析時間を短縮することとなりました。

停電は3日間続き、その間、自家発電機から必要最低限の照明と医療機器に電力を供給しましたが、9月の暑い気候の中、エアコンが使えない場所では患者さんにご負担をおかけすることになりました。

3日目の夕方には停電が収まったものの、4日目の12日(木)からは断水が始まりました。

給水車を手配したものの十分な水の量を確保するには至らず、透析時間の短縮、入院患者さんには入浴の回数を減らしていただきました。給水活動は断水が終わる9月17日(火)まで続きました。

台風15号では、多くの患者さんへたいへんご不便をおかけしましたこととお詫び申し上げます。今回の経験を糧にして、玄々堂君津病院グループが災害時に何ができるのか、職員一同で考えていきたいと思ひます。



自衛隊による給水活動